

タイトル：2025年度 教育セミナー（第21回）

日時：2025年9月18日（木）～21日

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階 大会議室（303）

「ユダヤ性をめぐるマイノリティの交渉：インド系ユダヤ「ベネ・イスラエル」に関する議論に着目して」

東佑太（東京外国語大学大学院総合国際学研究科）

このたびは第21回中東☆イスラーム教育セミナーに参加する機会をいただき、誠にありがとうございました。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の先生方、またセミナーに登壇してくださった先生方、そして運営を支えてくださった千葉様に、心より御礼申し上げます。

今回のセミナーでは、中東のみならず、北アフリカ、中央アジア、東南アジアといった多様な地域を対象とする研究者や学生の発表に触れることができました。参加者の多くは歴史学・人類学・社会学などを専門とする同世代の大学院生であり、こうした仲間と直接交流できたことは、私にとって非常に有意義な時間となりました。

そのなかで、私は現在執筆中の修士論文「マイノリティの交渉：インド系ユダヤ〈ベネ・イスラエル〉の議論を中心に（仮）」を題目として発表させていただきました。本研究は、ネイション・ビルディング論の枠組みを援用し、イスラエルにおける国民国家建設を、マイノリティであるインド系ユダヤの主体的な参与という視点から考察する試みです。

発表では、研究の射程と方法論を共有したのち、ベネ・イスラエルを事例に具体的な参与の過程を提示しました。続く質疑応答では、研究対象である〈ベネ・イスラエル〉に関するご質問をはじめ、イスラエルにおけるユダヤ性・イスラエル性の位置づけなど、本研究の根幹に関わる論点をご指摘いただきました。多分野の参加者からの問いかけを通じて、議論の焦点と今後の課題が一層明確になったと感じております。

また、先生方による講義では、今後研究者としてキャリアを築いていくにあたり、ライフプランや研究との向き合い方、さらには第一線でご活躍されている先生方の現在のご関心など、普段はなかなか伺うことのできないお話を拝聴することができました。研究者を志す自分にとって、今後の大学院生活の大きな指針になりました。

最後になりましたが、このような貴重な学びと交流の場を提供してくださった関係者の皆様に、重ねて感謝申し上げます。